



### ➤ JICA 地域別研修 中央アジア・コーカサス「防災行政」コースを実施

アジア防災センター(ADRC)は、国際協力機構(JICA)からの受託事業として、2005年8月22日から9月17日にかけて、中央アジア・コーカサス地域の防災行政官を対象とした防災行政研修をロシア語で実施しました。同地域では、旧ソ連時代からの防災制度・体制を踏襲・継続していることから、災害予防から災害対応、復旧・復興までを含めた防災行政全般の体制・制度の刷新や人材育成が強く求められています。こうした問題意識の下、今回の研修では、日本の防災行政の体制・制度、災害対策の知識、経験等を学び、同地域の防災力向上に貢献できるような内容で実施しました。

参加国は、中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、及びコーカサス地域のアルメニア、グルジアの計6カ国で、中央または地方政府の防災行政担当官計13名が参加しました。

研修生は、まず自国の災害の状況や防災政策などについて発表を行いました。山がちな中央アジア・コーカサス地域の多くの国は、様々な災害に見舞われますが、とりわけ洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害がよく発生しています。また冬季は積雪もあり、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させることもあります。1992年から2002年にかけての中央アジアでの災害の半分はタジキスタンで発生したのですが、複数の国に被害が及ぶ災害も多く発生しています。

発表の後、研修生は防災関連機関・施設での視察を交えながら講義を受け、中央政府・地方自治体・民間企業・メディア・医療の役割、防災教育など広範囲にわたって、日本の防災について学びました。災害時のヘルスケアについては、兵庫県こころのケアセンターを訪問、災害事例に基づいたヘルスケア活動を学び、各参加者は、災害後のトラウマ、PTSD(心的外傷後ストレス障害)対策の重要性を確認しました。

また、防災週間(8月30日~9月5日)の半ばに、三木市震災記念公園で行われた防災訓練を視察しました。各国で実施されている防災訓練は、軍隊や災害救助組織など救助専門部隊のみが救援・救助活動の訓練を行っているケースが多く、今回のような地域住民が中心となって参加した防災訓練を目にするのは初めてのようで、参加者にとっては大いに参考になったようです。

その後、京都市市民防災センターを視察、公的な住民防災意識啓発用の施設の必要性を、多くの参加者が感じました。一部の国ではこのような施設が既に存在しているものの、内容が充実しておらず、自国の施設の改善のモデルにしたいという意見も出ました。

この他、ハザードマップの作成を目的としたタウンウォッチングの実習を行いました。タウンウォッチングは、高度な専門知識を必要とせず、コミュニティ



ハザードマップ作成演習

レベルでハザードマップを作成する手法であり、作成過程で参加者自ら防災意識向上の効果があることを、研修員は実感していました。作成手法も複雑ではなく、対費用効果も高いことから、自国でもこの手法を採用したいという意見が多く出ました。

当研修の総括として、研修員は学んだ内容を自国の今後の防災対策の改善にどう結びつけていくのかという具体的な行動計画(アクションプラン)について発表しました。例えば、キルギスの参加者からの発表では、災害後の段階では、同国政府の非常事態省だけが復旧事業に携わっており、地方自治体の参画・協力がいない状態を指摘、関係省庁間の機構改革を含めて、今後は日本の防災システムを参考につけて、防災行政に携わっていききたいとの報告がありました。

なお、当研修実施にあたり、快く訪問等を受入れていただきました各関係機関の皆様には、この紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。当研修については、主任研究員の山本(yamamoto@adrc.or.jp)もしくは角崎(tsunozaki@adrc.or.jp)までお願いします。

### ➤ ADRC スタッフ紹介 (No.21)

#### □ 山本 昭 主任研究員

この2005年8月に株式会社大林組より、ADRCの主任研究員として派遣された山本昭と申します。大林組では、海外での交通インフラなどの建設現場を数多く回り、タイには15年、台湾には6年駐在しておりました。その間、バンコクと台北とも初めてとなる地下鉄の建設工事に現地事務所長として関わっておりました。海外における建設工事は、責任も苦勞もより重い仕事となりましたが、そうした努力が全て結果として反映されることから、非常にやりがいのあるものとなりました。国内においても、琵琶湖西岸にある白鬚神社で湖上に浮かぶ大鳥居の再建を1981年に行ったのを始め多くの事業に携わってきました。



国内外での建設現場では、常に防災の観点を持って臨んできましたが、とりわけシンガポールでのホテル倒壊事故の際には、管轄しておりました地下鉄工事建設現場より、救援部隊と関連重機を編成・派遣し、後にシンガポール政府から感謝状をいただきました。

当センター着任後は、まずJICA中央アジア・コーカサス地域の防災研修を担当しました。当センターに来て感じたことは、防災は予防から復興まで扱われる範囲が非常に広いということ、また各分野間の連携が重要であるということです。災害は忘れた頃にやってくると言われますが、過去の経験から教訓を学び取り、次に起こりうる災害に備えて、普段から鋭意努力を重ねていく、そういう意味でも、当センターが推進する「総合的な災害政策(TDRM)の考えに共鳴しております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by : Asian Disaster Reduction Center (ADRC)  
Hitomiraikan 1-5-2-5F, WAKIHAMAKAIGAN-DORI, CHUO-KU, KOBE  
651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone:+81-78-262-5540